東アジアを見つめた
古代日本「鞠智城」

鞠智城（きくちじょう）

―鞠智城の築城とその変遷―

鞠智城イメージキャラクター
ころう君

熊本県教育委員会

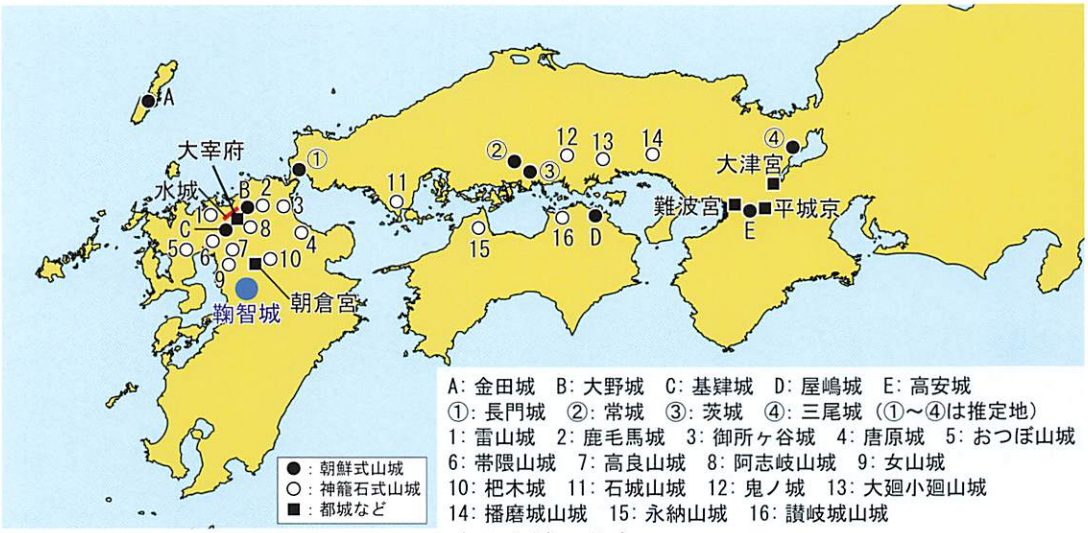
鞠智城と古代山城

鞠智城は７世紀後半、今から約1350年前にヤマト政権によって築城された古代山城です。この当時、朝鮮半島では高句麗、百済、新羅の三国の争いに、中国の唐が加わり、緊張状態が続いていました。

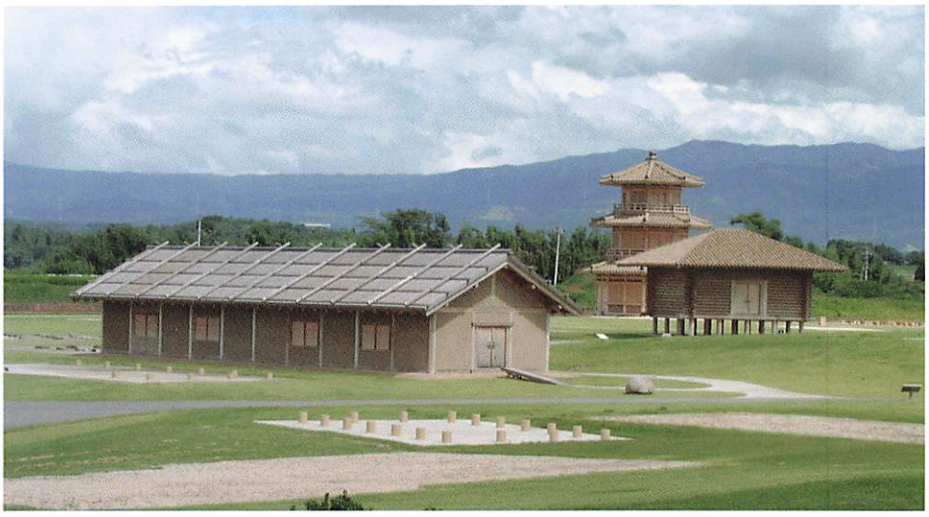
660年、唐と新羅の連合軍によって、日本と友好関係にあった百済が滅ぼされます。日本は、百済の復興を支援するために援軍を送り込みますが、663年に白村江で大敗し、百済の救援に失敗しました。その結果、今度は唐・新羅連合軍による日本侵攻の脅威にさらされることになります。そこで、ヤマト政権は西日本の各地に城を築いて防衛体制を強化します。こうして古代に築城された山城を「古代山城」といいます。『日本書紀』には、百済の亡命貴族が築城を指導したことが記載されています。古代山城を発掘調査すると、当時の朝鮮半島の土木技術が使用されたことが確認されています。九州では唐・新羅に備える最前線基地として金田城が築城され、大宰府を防衛するために大野城、基肄城が築かれます。それらの背後に位置する鞠智城は、防衛施設であったと同時に、食糧や武器などを前線へ供給するための兵站基地でもあったと考えられています。

７世紀の日本と朝鮮半島

しかし、結果として唐と新羅による日本侵攻はありませんでした。鞠智城はその後、役所的な役割を持つ施設などに変化し、10世紀半ばまで存続しました。



A: 金田城　B: 大野城　C: 基肄城　D: 屋嶋城　E: 高安城
①: 長門城　②: 常城　③: 茨城　④: 三尾城（①～④は推定地）
1: 雷山城　2: 鹿毛馬城　3: 御所ヶ谷城　4: 唐原城　5: おつぼ山城
6: 帯隈山城　7: 高良山城　8: 阿志岐山城　9: 女山城
10: 杷木城　11: 石城山城　12: 鬼ノ城　13: 大廻小廻山城
14: 播磨城山城　15: 永納山城　16: 讃岐城山城
古代山城の分布


■現在の鞠智城跡
建物の復元等、歴史公園としての整備が進められており、1350年前の姿を垣間見ることが出来ます。

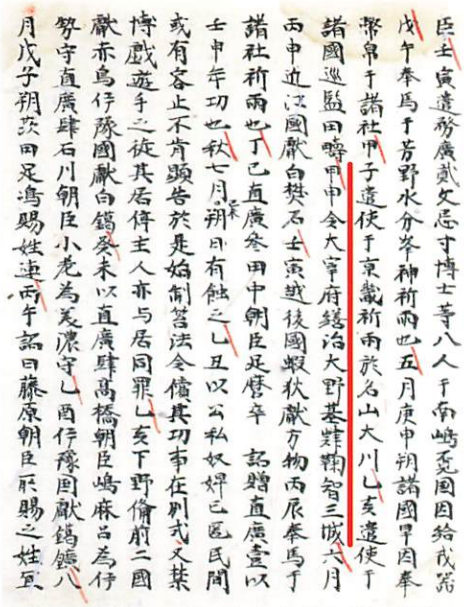
■憶礼福留の像
古代山城の築城を指導したといわれる百済の亡命貴族の１人です。

文献に見る鞠智城

鞠智城が初めて文献に登場するのは『続日本紀』で、698年、大宰府に鞠智城を修繕させたという記事です。

その後、『文徳実録』には、858年、菊池城院の兵庫（武器庫）の鼓が勝手に鳴ったということが書かれています。この記事から、「鞠智」という字が「菊池」に変わっています。また、菊池城院の不動倉（米倉）11棟が火災にあったと書かれています。長者原や長者山で大量の炭化米等が発見されたことは、火災が起こったことを裏付けています。

そして、『三代実録』に、879年、再び菊池郡城院の兵庫の戸が勝手に鳴ると書かれます。こうした不吉な記事が書かれた後に、鞠智城は文献に登場しなくなります。



『続日本紀』に記載された鞠智城の記事

鞠智城の位置

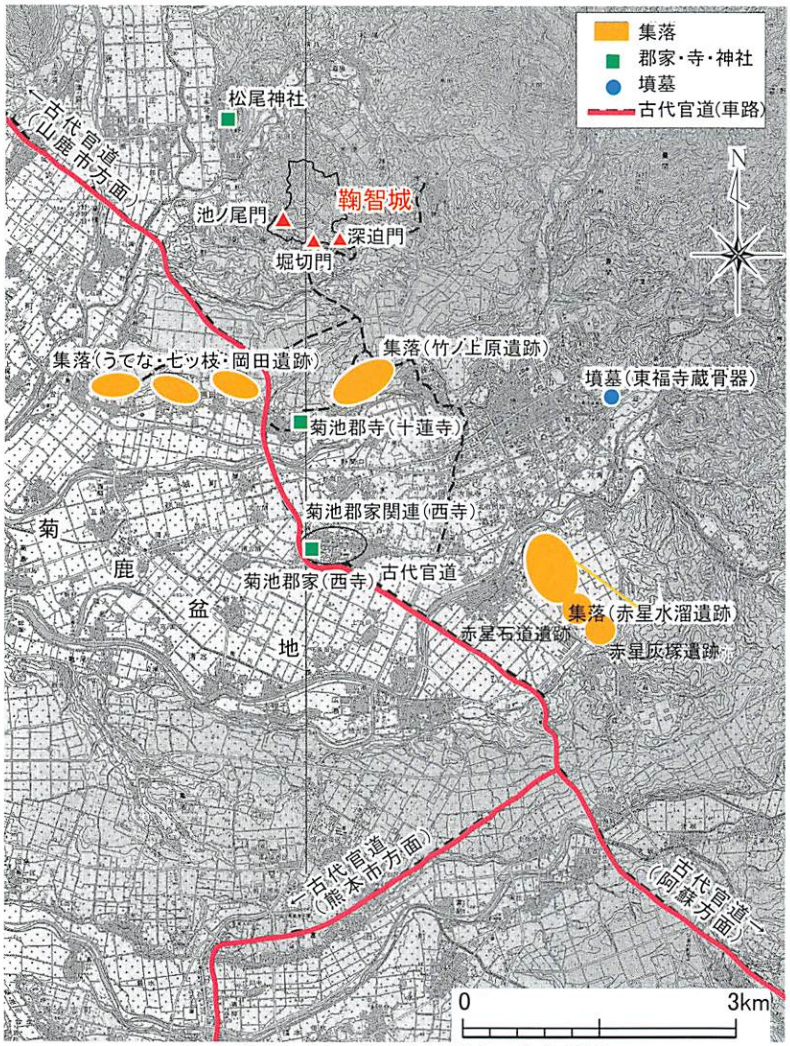
鞠智城は熊本県北部の菊池川中流域（河口から約40km）の山鹿市と菊池市にまたがって所在します。菊池川流域には、チブサン古墳や弁慶ヶ穴古墳など著名な装飾古墳が数多く存在し、全国総数約700基のうち約120基もの装飾古墳が集中しています。鞠智城は、菊池川の北岸に位置する標高140mの米原台地上に位置するため、菊鹿盆地を一望でき、遠くは雲仙島原の山々も眺めることができます。

山鹿、菊池の両市にまたがる広大な菊鹿盆地は、古代から県内有数の穀倉地帯として知られています。また、菊鹿盆地には、官道が通っていたことが想定されています。今日でも多くの幹線道路が縦横に通る交通の要所となっています。穀倉地帯であること、交通の要所であることは、鞠智城がこの地につくられた大きな要因と考えられます。

鞠智城は、大宰府から直線距離で約63kmも離れています。そのため直接的な大宰府防衛の城ではなく、兵站基地であったと考えられています。また、現在判明している古代山城で最も南に位置し、南方を広く眺望できるという点から、南方の隼人への対策という役割があったことも想定されています。

なお、鞠智城の周囲には8、9世紀の古代寺院跡や役所の跡と考えられる遺跡が確認されています。これらの遺跡と鞠智城がどのような関係にあったのかを調べることも今後の重要な課題です。

■鞠智城から見た南方の眺め
鞠智城内の灰塚からは、360度の眺望を楽しめます。特に南方に目を向けると、菊鹿盆地を一望することができ、遠くは長崎県の雲仙普賢岳（矢印）まで見通すことが出来ます。



古代官道（推定）と鞠智城周辺の古代遺跡

鞠智城跡の遺構

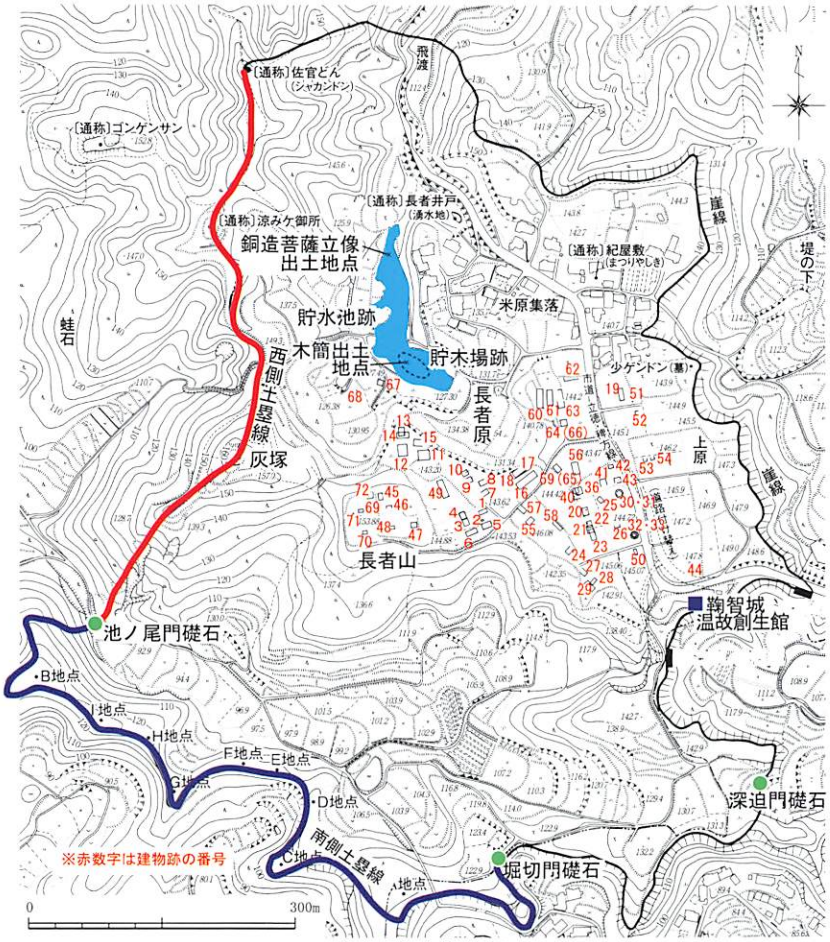
鞠智城跡からは、国内の古代山城では唯一の発見例である八角形建物跡をはじめとする72棟の建物跡、銅造菩薩立像や木簡をはじめとする様々な重要遺物が出土した貯水池跡、３カ所の城門跡、土塁跡などの遺構が検出されました。

建物跡には、掘立柱建物、礎石建物があり、これらの建物は倉庫や兵舎などであったと考えられています。

また、貯水池跡では、木材を蓄えるための貯木場や、水汲み場などがみつかっています。

城門跡からは、門の礎石や石積みなどが発見されました。

土塁には「版築」という当時の朝鮮半島の先進技術が使用されていることから、鞠智城の築城にも百済の亡命貴族が関わっていたことが考えられます。



鞠智城跡全体図

■八角形建物跡（32号建物跡）
中心に直径90cmの心柱を据え、その周囲に八角形に配置された柱が三重に巡っています。

■貯水池跡貯木場
貯木場からは、建物の建設に使う木材や、斧の柄や鋤などの木製農工具が出土しました。

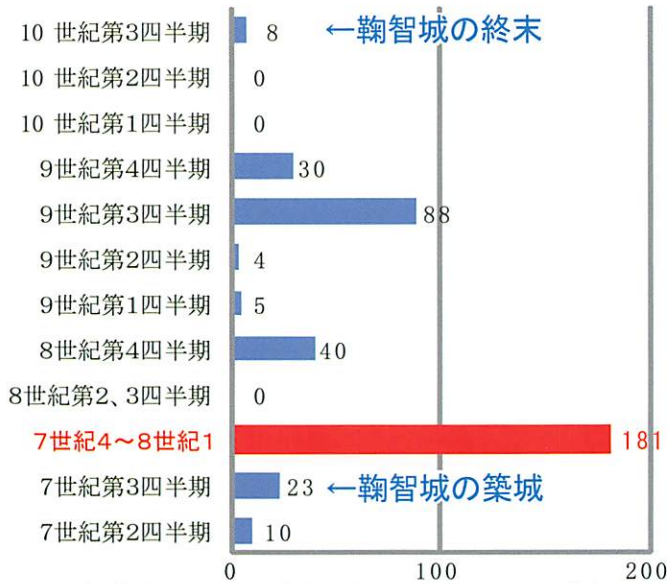
■版築土塁
土を何度も突き固めることで強固な壁をつくる「版築」という大陸伝来の土木技術を使ってつくられた土塁です。

■池ノ尾門跡（水門）
鞠智城跡で唯一、石積みと水門が見つかりました。幅9.6mの石塁を谷部を塞ぐようにして構築し、防御施設としていました。

鞠智城跡出土の遺物

鞠智城跡からは、日常生活に使われた土器、建物の屋根に葺かれていた瓦、建物の建設時等に使われた木材や木製農工具等の生活に関わるような遺物のほか、米を納めたことが示された荷札木簡、そして鞠智城の築城に百済の亡命貴族が関わったことを示す百済系の銅造菩薩立像など、極めて貴重な遺物が出土しています。

この中でも、人の生活と密接に関わる遺物である土器を分析すると、７世紀末～８世紀初頭のものが圧倒的に多いことがわかりました。このことから、７世紀末～８世紀初頭という時期が鞠智城に最も多くの人が駐留し、活発な活動が行われていた時期だと考えられます。



鞠智城跡出土土器の時期別数量比較（数字は個体数）

■銅造菩薩立像
やや丸みを帯びた顔立ち、三面宝冠、垂髪、天衣などがよく表現されています。その前で舎利容器と考えられる持物を捧げ持ち、やや腹部を突き出した姿態は、横からみると優雅なＳ字曲線を描いています。
その大きさ（12.7㎝）から、念持仏と考えられ、百済の高官が築城の指導などで訪れた鞠智城に持ち込んだものと思われます。

■１号木簡
墨書で「秦人忍□五斗」と書かれている荷札木簡です。上部には左右から切り込みが入れられています。この切り込み形状は、大宰府管内の木簡に見られます。

■軒丸瓦
鞠智城跡からは、平瓦、丸瓦、軒丸瓦が出土しています。その中でも軒丸瓦には、単弁八葉蓮華文と呼ばれる文様が施されています。この文様は、朝鮮半島の瓦の様式を受け継いでいるものと考えられています。

■須恵器（左）と土師器（右）
須恵器はロクロで成形し、窯を使用して高温で焼かれた硬質の土器です。土師器は素焼きで低温で焼かれた土器です。須恵器は固く焼きしまり水漏れしないことから、水や酒などの貯蔵具として優れていました。一方、土師器は熱に強いため、鍋、甑など煮炊きに使われるものが多く見られます。

■木製品（鍬と木槌）
木製品は貯水池跡から出土しています。建築材とともに保管されていました。鍬、鋤、斧の柄などが保管されていましたが、これらは粗加工までが終わったものでした。本来は、建築材を使う際に最終的な加工を施し、工具として使用する予定であったものと考えられます。

鞠智城の変遷

鞠智城跡の発掘調査成果から、鞠智城が７世紀後半から10世紀中頃までの約３００年間存続し、時代に合わせて城の機能が変化してきたことが明らかになりました。それにより、鞠智城の存続期間を大きく５つの時期に分けることができました。

ここでは、鞠智城がどのように変化していったのかについて、各時期ごとに解説します。

鞠智城Ⅰ期（７世紀第３四半期～７世紀第４四半期）

鞠智城の創建期です。白村江の敗戦により、唐と新羅の侵攻に備え、築城されます。掘立柱建物の倉庫や兵舎が建てられ、３箇所の城門、土塁線、貯水池など、城としての最低限の機能が緊急的に整備されました。また、百済系の銅造菩薩立像の存在から、築城にあたっては百済の高官が関与したと考えられます。

■復元建物（左：兵舎、右：板倉）
どちらも鞠智城Ⅰ期の建物です。兵舎は３間（7.8m）×10間（26.5m）の長屋風の建物で、約50人の兵士が寝泊まりしていたと考えられます。板倉は倉庫であったと考えられています。

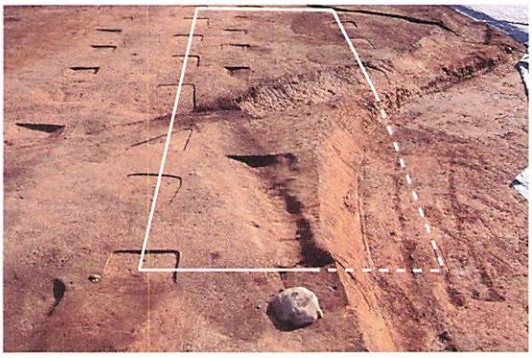
■木組遺構
貯水池跡につくられた木材を組んで囲い、１箇所に石段を設置した水汲み場です。

■南側土塁線
自然の尾根を削り、そこに版築という朝鮮半島の土木技術で土を盛って、土塁が構築されています。

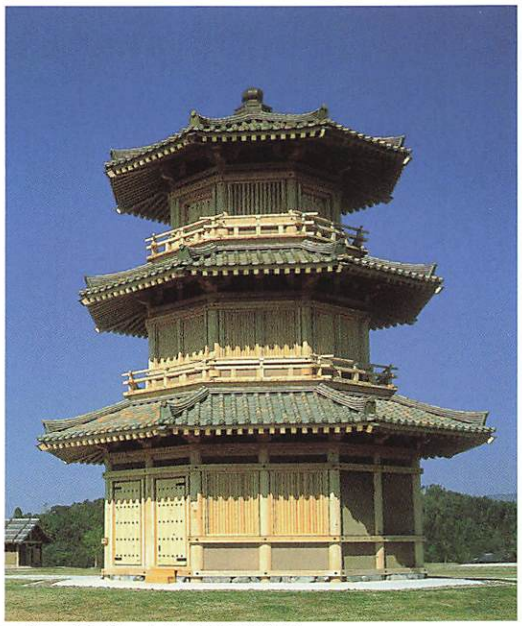
鞠智城Ⅱ期（７世紀末～８世紀第１四半期前半）

鞠智城の隆盛期です。鞠智城Ⅰ期の建物に加え、城を管理する建物や八角形建物など、城内の施設が最も充実した時期です。『続日本紀（しょくにほんぎ）』に記載のある、鞠智城の修繕記事の時期にあたります（698年）。

出土遺物を見ると、土器などの日用品はこの時期のものが最も多く出土しています。そのため、城の管理・運営に多くの人員が配置された時期であったと考えられます。



■大型掘立柱建物跡（63号建物跡）
３間（5.85m）×７間（16.8m）の建物跡。役所のような施設で、城を管理する建物であったと考えられます。



■復元建物（八角形鼓楼）
鞠智城Ⅱ期の建物跡である八角形建物跡（南側）を、様々な検討を基に復元した姿です。鞠智城のシンボルとなっています。

鞠智城Ⅲ期（８世紀第１四半期後半～８世紀第３四半期）

鞠智城の転換期にあたります。それまでの掘立柱建物が礎石建物に建て替えられていきます。鞠智城Ⅱ期にできた城を管理する建物や八角形建物は存続しています。

しかし、この時期の土器などの日用品はほとんど見あたりません。このことから、施設を存続していくための必要最低限の人員のみを配置するなど、城の管理・運営になんらかの変化が生じた時期と考えられます。

■大型礎石建物跡（49号建物跡；宮野礎石群）
鞠智城Ⅲ期に出現する礎石建物です。３間（7.2m）×９間（21.6m）の建物で、長倉と呼ばれる倉庫であったと考えられます。

鞠智城Ⅳ期（８世紀第４四半期～９世紀第３四半期）

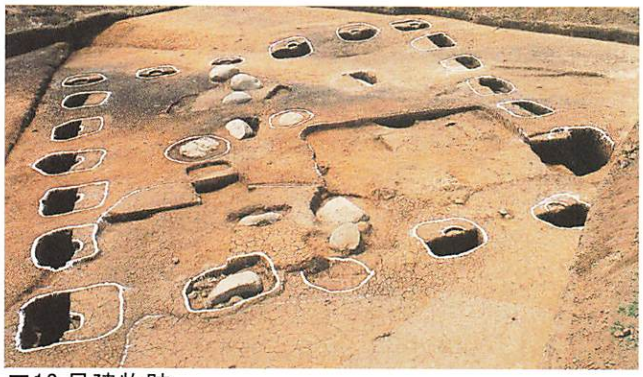
鞠智城の変革期です。城の機能が大きく変容します。城を管理する施設がなくなり、貯水池中心部では貯木場などが埋没し、その機能が低下します。また、礎石建物は大型化し、米などを納める倉が多く建ち並んでいたようです。

なお、『文徳実録（もんとくじつろく）』によると、天安２（858）年に鞠智城の米倉11棟が焼失したとの記載があり、それを思わせる炭化米や焼けた痕跡のある礎石も発見されています。

■炭化米
鞠智城Ⅳ期の米倉と考えられる礎石建物の周囲からは、炭化米が多量に出土します。これは米倉が焼失したという文献の記事を裏付けるものと考えられます。

■上：20号建物跡、下：20号建物跡を復元した米倉
鞠智城Ⅳ期の建物で、３間（7.2m）×４間（9.6m）の礎石建物です。この時期には、同規格の建物が規則正しく配置されています。

■59号建物跡
周囲に溝を持つ礎石建物です。大事なものを保管していたのかもしれません。建物の入口部分は溝が途切れています。



■12号建物跡
５間（11.5m）×６間（13.2m）の礎石建物の周りを掘立柱で囲んだ、礎石・掘立併用の建物です。

鞠智城Ⅴ期（９世紀第４四半期～10世紀第３四半期）

鞠智城の終末期です。建物数が減少し、機能は低下しますが、858年に焼失した米倉を再建するなど、食糧の備蓄施設としての機能は存続しています。しかし、10世紀の第３四半期頃には、鞠智城は完全に城としての役割を終えます。

鞠智城へのアクセス

- 「阿蘇くまもと空港」から車で、約４０分
- 「九州新幹線新玉名駅」から車で、約６０分
- 「植木I.C.」から車で、約２５分
- 「菊水I.C.」から車で、約４５分

- 「熊本桜町バスターミナル」から菊池温泉行きバスで、約６０分
  「菊池プラザ」下車後タクシーで、約５分
- 「熊本駅前」から菊池温泉行きバスで、
  約７５分
  「菊池プラザ」下車後タクシーで、約５分

- 山鹿市街からは【山鹿市あいのりタクシー/0968-46-6340】
- 菊池市街からは【きくち観光あいのりタクシー/0968-26-5022】
  が運行しています。いずれも予約制ですので、電話でお問い合わせください。

- 開園時間：公園は年中無休、入場無料です。
- 温故創生館　鞠智城について学べるガイダンス施設です（入館無料）。
  開館時間：９：３０～１７：１５(入館は１６：４５まで)
  休館日　月曜日(祝日の場合は翌日)および１２月２５日～１月４日まで
- 駐車場：普通車７０台、障害者用スペース３台。大型バス駐車可能（無料）。
- ボランティアガイドによる解説をおこなっています（２週間前までに要予約／無料）。
- 車いす、ベビーカーの貸し出しをおこなっています（数に限りがあります／無料）。

鞠智城イメージキャラクターころう君

お問い合わせ

熊本県立装飾古墳館分館
歴史公園鞠智城・温故創生館（おんこそうせいかん）
〒８６１-０４２５　熊本県山鹿市菊鹿町米原４４３-１
TEL. ０９６８-４８-３１７８
FAX. ０９６８-４８-３６９７
http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp/kikuchijo/

鞠智城ＨＰ

- このパンフレットは、昭和42年度から実施した鞠智城跡の発掘調査成果を総合的にまとめた『鞠智城跡Ⅱ』の内容を、わかりやすく紹介するために作成したものです。

この電子書籍は、鞠智城 を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、古代山城がある市町村教育委員会、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：鞠智城
　　鞠智城の築城とその変遷
発行：熊本県教育委員会
　　〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
　　電話：　096-383-1111
　　URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦 2002 年 8 月 18 日